

1.日時：2014年5月16日（金） 15:00～17:00

2.場所：BCAO 日本橋事務所

3.進行：市川座長（レスキューナウ）

4.記録：副島（大林組）

5.出席者（7名：敬称略・順不同）

市川（レスキューナウ）、橋元（清水建設）、高橋（インフォコム）、野田（アジア航測）、東根（建設環境研究所）、高木（富士通エフサス）、副島（大林組）

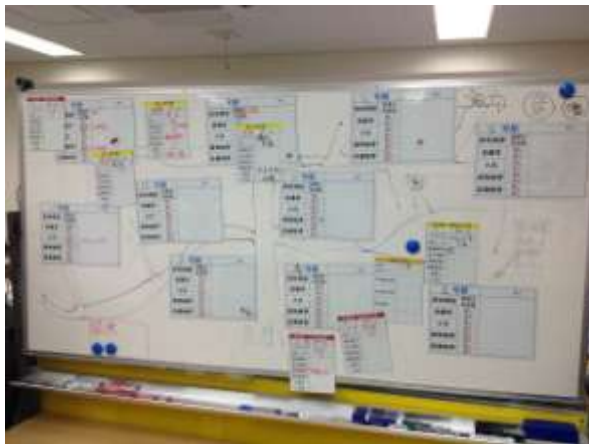
6.実施内容

(1) ホワイトボード用 災害情報カードの紹介と実演（紹介者：市川様）

- ・災害時における対策本部での情報共有支援ツール
- ・各種マグネットシートに予め災害時に収集必要な情報項目を記載
→施設の位置関係が記載されたホワイトボードに貼り付けて、時時刻々変わる被災状況を記入していく。（災害対策本部での利用を想定）
- ・消火班・救護班などのシートは、現在位置がわかるように適時ホワイトボード上で移動させることができる。
→今どこに被害が生じているか、誰がどこでどんな活動をしているかを迅速に把握可能
- ・「大学」を例題に、出席メンバーで対策本部の仮想訓練を実施。（下記写真参照）
→配役は下記の通り。（敬称略、進行：市川）

【災害対策本部】本部長：野田、初期消火班：高橋、現場対応班：副島

【各地区隊リーダー】第1：東根、第2：橋元、第3：高木



(1)対策本部のホワイトボード
(貼ってあるのが災害情報カード)



(2)各地区の被災状況の記入例

・意見・感想

- －背景の地図は、位置関係がわかればよいので、座標情報の正しいものである必要はない
→手書き（プロジェクタで拡大投影してなぞる等）でも十分。
- －情報の書き込み方法（○をつけるのか、チェックにするか、マグネット等にするか）はもう少し工夫があるとよいのでは。
→やや文字も多いので、フォーマット含め改善の余地がありそう。
- －火災マークや危険物マークなどのマグネットもあるとわかりやすい。
- －イメージがわきやすいので、訓練などで使用すると効果的。楽しかった。

(2) インフォコム社アクションカードの本研究会での活用検討

- ・インフォコム社のアクションカードの説明（高橋様）
 - －本研究会の成果（フローチャートとアクションフローリンク図）を基に、緊急時に「誰が何をするか」をアクションごとにカード形式に示したもの
 - －アクションフローリンク図を会社の状況に合わせてカスタマイズするとともに、誰でも対応できるようにわかりやすい表現で記載している。
 - －本研究会のアウトプットとして、このような汎用版アクションカードを作成して公開してはどうか。
- ・意見・感想
 - －これまでに作成したアクションフローリンク図で十分なのではないか。
 - アクションフローリンク図では情報の流れを重視しており、「誰が何をするのか」が明確ではないため、緊急時にあの図から「自分が何をしたらよいか」を読み取るのは難しい。
 - －確かにフローチャートだけではわかりにくい。誰でもアクションができるためにはこのようなアクションカードは有効。
- ・結論
 - －今年度の作業として、実用的に使えるツールとしてアクションカードを作成する。
 - －アクションの追加・見直しは行わない。（これまでに作成したものに準ずる）
 - －フォーマットは、高橋様が作成したものをご厚意で提供いただけることになった。
 - 後日、高橋様から各メンバーに送付いただく予定。
 - －内容としては、汎用的に利用できるひな形を基本とする。
 - －毎回4アクション程度を目安に議論し、今年度中の完成を目指す。

7.次回研究会

日時：平成 26 年 6 月 20 日（金） 15:00～17:00

場所：BCAO 日本橋事務所

議題：・某自治体におけるアクションカードの事例紹介（東根様）

・アクションカードの作成（a1～a4(予定)）

以 上